



66kg級表彰。優勝に笑みを浮かべる阿部一二三（左から2番目）

# ビッグタイトルを獲得！

## 高校2年の新鋭・阿部が 世界3連覇の海老沼を破り



世界柔道選手権に次ぐビッグゲームである柔道グランドスラム東京2014が平成26年12月5日より始まった(7日まで東京・千駄ヶ谷の東京体育館において開催)。

初日の5日は男子が60kg級と66kg級の2階級、女子は48kg級、52kg級、57kg級の3階級が行なわれ、日本は、男子1階級、女子は全3階級で優勝を飾った。

### 注目の海老沼戦を制した新鋭の阿部がV!

11月の講道館杯全日本柔道体重別選手権大会の男子66kg級を制した阿部一二三(神港学園神港高校2年)が、今度は、グランドスラム東京制覇という大仕事をやってのけた。男子で高校生のグランドスラム東京優勝は、初めての快挙である。

今大会、阿部の組み合わせは、決して簡単な道程ではなかった。同プロツクには、ワールドランキング4位のダワドルジ(モンゴル)、2009年世界柔道選手権ロツテルダム大会60kg級優勝のザンタライヤ(ウクライナ)、2010年世界柔道選手権東京大会60kg級優勝のソビロフ(ウズベキスタン)があり、正直に言って、世界3連覇の海老沼匡(パーク24)にたどりつくのは至難の業。おそらく無理だろうと思われていた。しかし、ダワドルジがベルデに敗れて、比較的戦い易いベルデとの対戦となり、この試合を大外刈で豪快に勝ち抜くと、続く準々決勝のザンタライヤには小外刈「技有」で優勢勝ち。前日の記者会見でも「海老沼さんと戦いたい」と言っていた阿部は、自力で海老沼戦まで漕ぎ着けたのだ。

一方の海老沼は、本調子ではなかつたが、2回戦を内股、3回戦を背負投、そして準々決勝のアン・ボウル(韓国)は隅返「技有」からの縦四方固の合技で破り、世界王者らしい安定した内容で勝ち上がった。

そして、注目の一戦。先手を取ったのは王者・海老沼で、阿部の内股をめくるように返して「有効」を奪った。その後も、阿部の動きや技を、受けるのではなく、先手の攻撃で封じ込める海老沼。それでも阿部は、果敢に技を仕掛け続け、阿部の大腰に反応し、裏投に合わせてきた海老沼に、逆に身体を浴びせ大内刈で「技有」を奪取。阿部がこのポイントを守り切り、大番をものにした。



▲66kg級準決勝。一発のある海老沼と阿部の対決は見応えのある一戦に

これにより、東京オリンピックではなく、リオデジャネイロオリンピックさえも視界にとらえた阿部。海老沼の巻き返しとともに今後が大いに注目される。

### 高藤を脅かす存在現れず志々目は決勝で韓国のキムに苦杯

男子60kg級は、昨年の世界王者であり、この階級、日本の第一人者でもある高藤直寿(東海大3年)が今大会に出場しておらず、高藤を脅かす日本の二番手の台頭が注目ポイントだったが、結果としては、期待はずれの内容だったと言わざるを得ない。

講道館杯を制し、久々に大きなチャンスを得た山本浩史(ALSOK)は準々決勝で、昨年のグランドスラム東京準優勝のキム・ウォンジン(韓国)に背負投「技有」で敗れ、講道館杯準優勝の木戸慎二(パーク24)も3回戦でイブラエフ(カザフスタン)に大内返「有効」で敗退。

志々目徹(了徳寺学園職員)と大島優磨(国士館大学2年)が準決勝に勝ち上がり、大外刈「有効」で勝った志々目が決勝へ駒を進めることとなった。



▲60kg級準決勝。志々目が大外刈「有効」で大島に勝利

男子階級別順位表

階級	60kg級	66kg級
優勝	W.KIM (韓国)	阿部 一二三 (神港学園神港高校2年)
準優勝	志々目 徹 (了徳寺学園職員)	G.POLLACK (イスラエル)
3位	大島 優磨 (国士館大学2年)	M.PULYAEV (ロシア)
	R.IBRAYEV (カザフスタン)	高市 賢悟 (東海大学3年)

常々攻撃の遅さを指摘されている志々目は、今大会でも、その悪いクセの改善は見られず。それでも、長所である切れ味鋭い内股で勝利を重ねて決勝までは進んだが、決勝のキム・ウォンジン(韓国)には、先に組まれ、先に技を掛けられて守勢となり、「指導3」。終盤、果敢な攻めで「指導2」まで取り返したが万事休す。今回も欠点の克服をアピールするような試合はできなかつた。

ベテランの山本、中堅の志々目と木戸、そして新鋭の大島、いずれも存在感を印象付けるような試合はできておらず、高藤を脅かすどころか、高藤の価値をさらに高めるような結果となつてしまった。



▲女子48kg級決勝。近藤と浅見の新旧世界女王対決は、近藤に軍配

今夏のチエリヤビンスク世界柔道選手権大会で優勝を果たし、新女王となつた近藤亜美(三井住友海上火災保険)と2010年東京、11年パリの世界チャンピオン・浅見八瑠奈(コマツ)との新旧世界女王対決に注目が集まつた48kg級。

両者ともに抜群の強さを見せ、浅見が得意の体落、背負投からの抑え込みという必勝のパターンにより、オール本勝ちで決勝に勝ち上がり、近藤も「代名詞」の払腰を駆使し、やはりオール本勝ちで決勝へ進出。ファン待望の二戦が実現した。

昨年のこの大会で優勝を果たし、そこから一気に世界の頂点まで駆け上がった近藤は、世界柔道選手権優勝後も、世界ジュニア選手権大会で優勝し、まさに飛ぶ鳥を落とす勢い。開始早々から、その勢いを感じさせる攻めを見せ、組み際に意表を突く巴投で

# 48kg級の新旧女王対決は、新進・近藤に軍配が上がる

## 世界女王の近藤、攻撃柔道で浅見を破り連覇達成

「有効」を奪取。中盤以降、浅見がペースを掴み、優位に攻めるも、今の近藤は受けも安定しており、浅見の攻撃をしつかりと捌いて終了。新旧女王対決の軍配は、近藤に上がるこゝとなつた。

**元世界王者の中村と西田を破り、橋本が実力証明の連覇果たす**

現在、52kg級の第一人者として世界柔道選手権代表となつている橋本優貴(コマツ)だが、世界柔道選手権では昨年が3位、今年は7位といまつ振るわず、2010年東京大会優勝の西田優香(了徳寺学園職)、2009年ロッテルダム大会、11年パリ大会優勝の中村美里(三井住友海上火災保険)に比べ、どうしても印象が薄い。今大会には、橋本、中村、西田のトップ3全員が顔を揃えたこともあり、橋本にとっては代表としての実力を証明する最高のチャンス。そして、西田、中村



▲女子52kg級準決勝。中村に対し、橋本の送襟絞が完全に極まる

にとつては来年の世界柔道選手権、そして再来年2016年のリオデジャネイロオリンピックを見据え、完全復活

をアピールするのに絶好の機会と言えた。

そのチャンスをものししたのは、橋本。橋本は、初戦から得意の寝技を駆使し、3回戦ではIJFポイントランキング2位のチツ(ルーマニア)に横四方固で二本勝ち。そして準決勝では、宿敵・中村に送襟絞で完勝。決勝でも、西田を相手に内股、大内刈、小内刈の波状攻撃を見せて圧倒。西田を「指導1」で下し、実力を証明して見せた。



▲女子52kg級決勝。西田を内股で攻める橋本

**勇猛と冷静を兼ね備え、オリンピック「金」の松本薫が復活!**

57kg級にも、ロンドンオリンピック金メダリストの松本薫(フォーリーフジャパン)、チエリヤビンスク世界柔道選手権王者の宇高菜絵(コマツ)、そして9月のアジア競技大会優勝の山本杏(国士館大学2年)ら、日本のトップ3が集結。この3人の勝ち上がり注目された。

そんななか、世界柔道選手権で負傷した膝がまだ完全でない宇高は、4回戦のラファエロ・シウバに「指導二つ」の差で敗退。山本もチエリヤビンスク世界選手権準優勝、今大会第1シードのモンテイロ(ポルトガル)に小内刈「技有」で敗れ、準決勝を前に姿を消した。

準決勝はモンテイロとシウバという海外の実力者同士のカードと、松本、新

進の芳田司(コマツ)という好カードとなり、シウバと松本が勝ち上がった。今大会、ノーマークに近かつた19歳の芳田は、思い切りのいい柔道で松本とも互角の試合を展開。敗れはしたが、将来性を感じさせる内容だった。

決勝は、松本が左二本背負投をつぶされながらも、巧みに寝技に移行し、実力者モンテイロに横四方固で二本勝ち。



▲女子57kg級決勝。松本がモンテイロに横四方固で完勝

勇猛かつ冷静、完全復活を感じさせるに十分な内容だった。

女子階級別順位表

階級	48kg級	52kg級	57kg級
優勝	近藤 亜美 (三井住友海上)	橋本 優貴 (コマツ)	松本 薫 (フォーリーフジャパン)
準優勝	浅見 八瑠奈 (コマツ)	西田 優香 (了徳寺学園職員)	T.MONTEIRO (ポルトガル)
3位	B.JEONG (韓国)	志々目 愛 (コマツ)	芳田 司 (コマツ)
	P.PARETO (アルゼンチン)	中村 美里 (三井住友海上)	R.SILVA (ブラジル)